

2016 年度事業報告書

【期間】2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

1. 全体総括

2016 年に中心的な事業となったあんしん電話一連の取り組みをふりかえると、「あんしん電話」の取り組みを通して、CoCoT が組織として学び蓄積した経験知を十分に活かした年でした。

「松戸あんしん電話地域見守り協議会」の事務局として、法人整備と経営基盤の形成に寄与できました。「多様な主体のコーディネート」という文言を、これほど、実感を持って感じ、実践の努力ができたことはありません。我が事のように、地域の状況に心を砕き、奔走する人々と出会い、共にあることの意味を突き付けられ続けた一年でした。CoCoT は、町会・自治会を担う地域の方々の温かさに励まされ続けて、役割を果たすことができたのです。

また、松戸駅前に新法人と共同事務所を設置しました。支払い家賃が大幅に増加するので、大きな負担となりますが、積極的な運営体制に切り替えることにしました。

昨年度、私たちは、「持続可能なマーケティング領域を持ちつつ、現状社会の課題にしっかりと沿った社会変革にインパクトのある課題解決型のプロジェクトの立ち上げる準備を始め、支払い能力のないマーケティングから除外された人々の存在を明確にして、持続可能な社会の新たなマーケティング領域として開発していくことで、自らのビジネスモデルをも生み出していこう」と考えました。

今年の自分たちの役割を振り返ると、昨年 CoCoT が担おうとしていたことは、やはり、課題の当事者が主体となつてすべきことだと思います。CoCoT は、どこまでも中間支援組織として、伴奏者であるべきでしょう。

既に、時代は、中庸や保留ではなく、立場を明確にして意思を伝えていくことが求められています。国際情勢では、曖昧な理想主義のデモクラシーでは何も解決できないほど切迫しています。日本だけが安穏とした暮らしを保証されるはずがないのです。格差の広がった現代では、明確な課題認識のない活動は対応できません。自己実現や社会性のない活動は、取り残された人々に届くものではないでしょう。

こんな時代だからこそ、CoCoT にできることは、課題の当事者の人々が血を流して感じたことを、社会性と普遍性をもったメッセージとして伝えるサポートです。そして、単なるメッセージに終わらせない確信をもった実践につなげることです。CoCoT は、目標に向かってプロセスをコーディネートしことを起こしていく技術を研鑽し続けてこそ、存在意義があるのだと思います。私たちは、形にとらわれることなく、経験から得た知見を社会に還元していく道を模索し続けていくことが大切です。

2. 2016 年度個別事業実績

2016 年度は、「地域連携」「人材育成」「NPO 支援」という 3 つの柱に沿って、それぞれに事業を充実させていった。

2-1 コミュニティ・コーディネート部門(地域活性化センター松戸)

(1)【地域連携】「松戸あんしん電話地域見守り協議会」事務局

地域連携では、「松戸あんしん電話地域見守り協議会」事務局として、NPO 経営手腕を発揮して、事業全体のマネジメントと「一般社団法人あんしん地域見守りネット」設立のサポートをした。独立行政法人福祉医療機構の助成金を確保することで経営的にも見通しを立て、事務局の役割を果たすことができた。

本年度の事業重点地区 5 つの内、阿部クリニックのシステム稼働に向けて地域有力者との関係構築中である。直接に人がふれあって見守り合う「あんしん電話」と緊急通報の違いの明確化にして、加入してほしい人にこそ情報が伝わる広報に取り組む必要がある。ほっとラインを有効活用して、実績を上げていくことが課題だ。

(2)【地域連携】自動応答電話(通称:あんしん電話)による安否確認事業

自動応答電話(通称:あんしん電話)による安否確認事業は、プロジェクトを立ち上げることはできなかった。この事業は、新法人「一般社団法人あんしん地域見守りネット」の事業に位置付けられると想定される。

(3)【人材育成】まちの学び舎「まちばカレッジ」運営

人材育成では、まちの学び舎「まちばカレッジ」運営を実施した。地域の人々が自ら「考える」ことを通じて、共同体を築き、暮らしの豊かさの得ていく場(機会)として作り上げていくことを目標にした。二十世紀ヶ丘の立地と交通の便の条件で、一般の個人向けの講座を採算のとれる事業として成り立たせることは、非常にむづかしい。講座の内容としては、哲学講座など意義深い講座もあった。「対話の場であり、考え自分を深掘りする時間」となるように企画し実践した。常盤平の「みかんハウス」主催のイベントに参加したことをきっかけに、共催の企画が実現できた。参加者延べ数も 117 名を超えて、定期的を開催することの強さも読み取れる。それにも関わらず、直接的な目に見える成果につながらなかったことはもう一度様々な角度から検証すべきだ。集客できず、開催できない講座やサロンなどの企画が増え、松戸駅周辺の有料の会場を借りて開催することになった。まちば事業の助成金申請もできなかったため、十分な事業費や人件費が確保できなかった。2 年目の 2017 年度は、広報やチラシ作成が効率的に行って、共催企画なども積極的に取り組みたい。事業方向性を維持しながら、バランスの取れる収益構造に持っていくことが大きな課題である。

<2016年度 開催実績>

	日付	講座名	テーマなど
1	4月21日	車座 Debanda 第6回	あなたにとって”幸せ”とは？
2	6月16日	車座 Debanda 第7回	”安心”ってなんだろう？
3	4月23日	エンディングノートの書き方講座	
4	5月19日	DIY 広報実践講座	第1回 告知～集客 活動チャートの活用
5	6月2日		第2回 プレスリリース作成のポイント
6	5月26日	自分らしい助成金の取り方講座	第1回 活動に合った助成金の探し方
7	6月9日		第2回 要綱に沿った企画書の書き方
8	6月23日		第3回 無理のない資金計画の立て方
9	12月15日	まちばカレッジの哲学カフェ	
10	5月21日	現代社会の読み解き方を学ぶ 国際情勢を読むための哲学講座	第1回 「近代とは何か」
11	6月11日		第2回 「個人主義から見えてくる”近代”」
12	7月16日		第3回 「格差なき人間像がもたらす市民社会の陥穽」
13	8月20日		第4回 「平等化の進展がもたらす危機」
14	9月3日		第5回 「自由は何のためにあるのか」
15	10月1日		第6回 「”正(善)”に優先する”権利”」
16	11月13日	NPO 法人 CoCoT10 周年記念企画 混迷の現代社会を 考え生き抜く知恵	文芸評論家「月村敏行」氏を迎えて、現代社会の考察とともに「思想するとは何か？」について語っていただいた。
17	8月18日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第1回
18	9月15日		第2回
19	10月20日		第3回
20	11月10日		第4回
21	12月8日		第5回
22	3月7日		第6回
23	3月30日	good question café 第1回	常盤平のシェアハウス「みかんハウス」共催企画

参加者延べ数:117名

主催:CoCoT

助成:YS市庭コミュニティ財団

(4)【地域連携】松戸東口周辺活性化「ヒカッテルネ！松戸マルシェ」事務局

松戸東口周辺活性化「ヒカッテルネ！松戸マルシェ」は定番のイベントになり、地元東口商店会とも信頼関係が生まれ、出演各方面からの問い合わせも増えた。このイベントは、人手も事業費も関わってくれる方々の手弁当で成り立っている。収益もなく人手も負担になる企画を続けることに見直しの声もあるが、今年度は、NPO への信頼と地域への定着を優先して取り組んだ。この点は評価できるが、この信頼と定着を最低限の事業費につなげていくことが課題である。

<開催実績>

開催予定 10 回 実施回数 6 回

No	日付	内容
1	4月17日	荒天のため中止
2	5月15日	実施
3	6月19日	実施
4	7月17日	実施
5	8月21日	暑いのでお休み
6	9月18日	雨天のため中止
7	10月23日	実施 キッズハローウィン
8	11月20日	中休み
9	12月18日	実施 クリスマスイベント
10	1月15日	寒いのでお休み
11	2月19日	寒いのでお休み
12	3月19日	実施

(5)【NPO支援】まるごとスマイルファンド(休止)

2-2

コミュニティ・シンクタンク部門

(1)調査研究事業

○【地域連携】高齢化社会に対応した地域の見守り体制づくりの研究

委託者:公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団

今年度調査のまとめ

1. 「あんしん電話見守り活動」が、地域活動に対する補助事業として政策に位置付けられた。
2. 「あんしん電話」の仕組みを地域包括支援センターに導入する事を検討する事が始まった。つまり、公共事業として政策に位置づける可能性が出た。

3. アイギスサロンは、コミュニティサロンとして、見守り活動の受け皿の役目をした。
4. コミュニティサロンを見守り体制の拠点とするためには、地域リソースを活かしたサポーター(専門職)が必要である。
5. アイギスのような強い思いを持った人々によって構成される協議会が、法人格を持ったネットワーク組織として、あんしん電話に端を発する広範な地域課題に取り組んでいく可能性が出てきた。

○【地域連携】独居高齢者の孤立化の予防に向けたボランティアの継続要因の調査
委託者:公益財団法人 太陽生命厚生財団

認可地縁団体幸谷町会のヒアリングを実施し、見守りボランティアの活動についてその継続要因を分析した。

(2)NPO支援センターコンサルティング

【NPO支援】流山市民活動推進センター運営サポート

NPO 支援は、流山市民活動推進センター運営サポートを行った。企画や運営について任せることのできるスタッフが頭角を現したのは特筆すべきことだ。

(3)講師派遣

○【講師派遣】創業支援講座

日時:第1回 2016年10月12日(水)17:00~20:00
場所: NPO法人 新現役ネット セミナールーム
〒108-0014 東京都港区芝5-31-10 サンシャインビル9階
内容:東京都内で起業したい女性・若者・シニアを対象とした融資などの資金調達を含めた創業支援講座
主催:NPO法人新現役ネット

○【講師派遣】平成28年度ボランティアコーディネーター研修 基礎編

日時:2016年12月12日(月)10:00~15:30
場所:千葉県社会福祉協議会
内容:ボランティアコーディネーターの役割と必要とされるスキル
主催:千葉県社会福祉協議会

○【講師派遣】平成28年度市民活動支援組織ネットワーク研修会

ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会
日時:2017年3月15日(水)10:00~15:30
場所:千葉県教育会館
内容:テーマ「災害時に効果的な連携が可能となる平常時からの取り組み
~今、地域力を高めるために中間支援組織の取り組むこと」

主催：千葉県環境生活部県民生活・文化課 千葉県社会福祉協議会

(3) 設立十年事業プロジェクト

設立十年記念事業として、2016年11月13日「混迷の現代社会を考え生き抜く知恵」と題して、松戸在住の文芸評論家月村敏行氏を講師に迎え、30代・40代の世代向けに哲学トークイベントを開催した。40人近くの参加者を得、実りある記念企画になった。

・実績の整理と出版

取り組むことはできなかった。

(4) 管理系広報部門

○ビジネスパートナー向けに定性情報を掲載したHPのリニューアル。

○ブログ「CoCoTな人々」/facebook

○まちばカレッジ ブログ/Facebook

(5) 管理系経営部門人事

スタッフの配置も、常勤職員を含め5名となった。継続して働き続けてくれるスタッフに恵まれ、業務遂行が安定してきた。職場を維持して雇用を継続していくためには、経営側の努力はもちろん、スタッフ一人一人が成果を返していくことのできる働き方が重要になる。効果的な働きやすい環境整備を進めていく必要がある。

経理業務をサポートするスタッフを置き、領収書のファイリングや給与計算などの日常業務を処理できる体制にした。ただ、経理の専門知識を持っていないスタッフが携われる仕事には限界があるので、新法人の経理業務も増えることから、経理業務の処理体制は見直しが必要である。